

高山の文化

No.124 2011.4.20 Culture In Takayama



飛騨高山まちの博物館(4月11日オープン)

社団法人 高山市文化協会発行



高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel. 34-6550 Fax. 34-6877

メールアドレス●mail@takayama-bunka.org

ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org

(文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください)

去る三月二十三日に開かれた通常総会において、平成二十三年度の当協会の事業計画並びに予算の審議が行われました。国島市長の「文化関係予算は高山市の予算総額の1%を確保する」という私ども文化関係者にとっては、洵にありがたい方針に基づいて当協会の予算を編成すべきところでしたが、総会開催日が市議会の議決前という事情もあって、これに関する予算計上は見送り、五月に開催予定の次回総会において追加予算として審議することとしました。当協会としては、国島市長の文化関係予算重視の意向を十分に考慮し、今後も有効かつ適切に高山市文化向上のために尽力していく所存です。



去る三月二十三日に開

日常的な暮らしの中で

(社)高山市文化協会

会長 小鳥 幸男

直接的な地震被害もさることながら、これに伴う古今未曾有の大津波襲来という大惨事を招きました。加えて、東京電力福島第一原発事故は、かねてから危惧されていた事態を超え、極めて深刻な課題を投げかけています。地震に関して言えば、この地域には「跡津川断層」と「阿寺断層」の二大断層が走っているほか、高山市に直接的な影響があるとされる「大原断層」もあり、決して他人事では済まされ

ません。このたびの大災害は、奢り浮かれているかと思われる現代社会への一大警鐘ではなかったでしょうか。これに対し、世間では追悼の意を込めて諸行事を慎む風潮が一部にあります。私はその様な流れは一時的な現象であり、根本的で正しい対応ではないと思います。多分に誤解を招く恐れのあることを承知の上で申し上げるならば、それらの行為は一時的な自己満足のみで

らかしに過ぎません。今、被災地に必要なのは形式的な同情ではなく、実質的な援助ではないかと思えます。世に「富者の万灯より貧者の一灯」と言います。それぞれの立場で、分に合った一灯を捧げたいものです。ただ悲しみに打ち拉がれるだけでなく、私たちはごく日常的な生活において、被災された方々のために何ができるのかを考えて支援すべきだと思います。決して浮かれることなく、冷静に普段の暮らしの中で日本人が持つ潜在的な良識を集し、この「国難」とも言うべき事態に立ち向かうべきではないでしょうか。

会員募集

(株)高山市文化協会会員
高山メセナメイト会員
～どなたでも入れます～

■文化協会会員

(社)高山市文化協会は、芸術・学術をはじめ文化の普及・向上に関する事業を行い、地域の文化事業の充実と文化の発展に寄与することを目的としています。この趣旨にご賛同いただける方は是非ご入会ください。

◇年会費 個人3,000円/団体6,000円

賛助会員(企業)10,000円

文化協会会員になると自動的に高山メセナメイト会員の資格も得られます。

■メセナメイト会員

高山メセナメイトは、優れた舞台芸術等を鑑賞し、情緒を豊かにするなど文化活動を支援充実することを目的とする組織です。

◇特典

- ① 高山市文化振興自主事業の公演チケットが一般発売前から購入できます。
※格安でお求めできる場合があります。
- ② 高山市民文化会館及び近隣の文化施設の催し物案内を年4回お届けします。
- ③ 名古屋などで行われるミュージカル・コンサート等の鑑賞バスツアーに参加できます。

◇年会費:500円

◇申込み方法(共通)

いずれも会費を添えて高山市民文化会館事務所へ申し込みいただくか、電話(TEL34-6550)でお問い合わせください。

桃源郷への想い 飛騨百景 額額 敏郎

額額 倫子

額の異様な人物デッサンに注目し、その場で個展を勧められたそうです。その後、東京での個展が続く、私との出会いもこの頃で先生の媒酌で結婚しました。

数年後に、東京の某劇団との関わりがあり、暫くは舞台美術を手がけていました。例えば、額額は「因果応報」の芝居絵(八m×二m)を七枚余り制作、私は観音堂など共にかつて無かった経験をしました。さらに額額は二年がかりで描き上げた大絵巻「現代の地獄絵・人間とは何か」(全長百m×幅二m)を名古屋にて一般公開。人間の煩惱や業をダイレクトに描いた鮮烈な絵巻物でした。NHK教育テレビ・文化シリーズ「闇への凝視・現代の絵師額額敏郎」が制作放送されたのもこの頃だったでしょうか。

一九八八年、高山市に飛騨国際工芸学園が設立され、その開校に伴い私共は招聘されました。一九四〇年に名古屋の大須に生まれ、少年時代はゴッホに憧れて画家への道を夢みたとです。やがて成人となって、美術評論家の滝口修造著「近代芸術に感銘し、描きためた」デッサンを百枚近く抱え、リュックには緊張を解く為のウイスキーをこっそり忍ばせて、誰の紹介も無く東京の自宅を訪ねたそうです。滝口先生は額の



激動の昭和終 開校して二年目のカリキュラムに採り入れた巨大絵巻



新・飛騨百景一版画集より「鍛冶橋・手長足長のお花見」木版画

「百m×二m」は、激動の時代「昭和」をテーマに、主任教授の額額を軸に教師と学生達との共同制作で進められました。単に歴史の記録にとどまらず、人間の深層の闇と光を際立たせた絵巻で、一般公開の展示は高山を皮切りに、名古屋、東京、京都等で行われました。通常の美術展と異なるのは来場者の方々の間で次々と会話が生まれてくる事でした。それぞれに昭和の歴史の節目に思いを馳せ、例えば大戦中の疎開先での体験談など、走馬灯のように色々と記憶が甦ってこられるのでしよう。翌年の一九九〇年にも同じく巨大絵巻の二作目「人類世紀末」が完成。初公開はベルリンの壁崩壊もないドイツで展示されました。二十年後の現在、社会人になったかつての学生さんは当時の授業を懐かしんで、「絵巻を指導する額額先生の鷹の如き鋭い眼差しと、厳冬のさなかの熱い緊張感忘れられず、絵巻は大切な若き日のミニチュメントになっていく」などと語ってくれます。

さて、長年人間をテーマとしてきた額額は、都会から高山に移り住んでから風景を描くようになってきました。飛騨ならではの自然の豊かな喜怒哀楽の季節感や、伝統行事などの風物詩に感動し、それらのモチーフを版画にしたのが「新飛騨百景」です。作品は二か年に亘り岐阜新聞に連載。額額は以前から飛騨に憧れ「桃源郷」と呼んでいただけに、「スピリチュアルで情感豊かな版画集」となり、二〇〇二年の春にNHK出版より刊行されました。実は当時、主人はいのち水?(酒)が祟ってか末期の肝臓癌を患い闘病中でしたが、有志の方々のご支援で「夢嵐・新飛騨百景」と称した出版記念パーティーを開催。多くのお客様の前で車椅子のまま感謝の挨拶をさせていただけました。しかしそれは生前葬となり、まもなくあの世に旅立ってしまいました。作家にとり死は人生の通過点、作品のなかで更に生き続けることでしょうか。額額は私にとり今だ刺激的な存在で、娘達も父親とは魂の深いところで繋がっている。お陰で数々の遺作からパワーをもらい日々励まされています。

第35回 飛騨文芸祭作品募集

飛騨文芸祭作品募集

- ◇応募資格 飛騨三市一村に在住か在勤、または出身の方
◇対象作品 平成二十二年八月十六日から二十三年八月十五日までに創作または発表された作品(同人誌での既発表作品も可)
①小説、戯曲、児童文学等
②随筆、評論等 四百字詰原稿用紙二十枚以内、一篇
③現代詩 四百字詰A4サイズ用紙使用 一篇
④短歌、俳句 四百字詰A4サイズ用紙使用、十首(句)
⑤短歌、俳句(十八歳未満) 四百字詰A4サイズ用紙使用
※対象作品①②の入賞作に

高山文化フォーラム2011 芸能と文化展
恒例の高山文化フォーラムを6月4日・5日に高山市民文化会館で開催します。
◎芸能の部
・6月4日(土) 午後6時開演 小ホール 日本舞踊など
・6月5日(日) 午後1時開演 大ホール 邦楽・民謡・詩吟・太鼓など
◎文化展の部
・6月4日(土)・5日(日) 午前9時30分～午後5時(5日は午後4時)
版画・写真・華道・盆栽・俳句・短歌・書道・人形など

平成23年度 (社)高山市文化協会事業計画

Table with 3 columns: 月日 (Date), 事業名 (Activity Name), 内容 (Content). Lists various cultural events and meetings throughout the year.

※日程は変更する場合がありますのでご了承ください。

「岡目(目)」 子供の時にアリを砂の入った瓶に入れて飼っていた。瓶を揺すって巣を壊すと、勤勉なアリは又すぐ新しく巣を作り直した。何回やっても又すぐ作り直すので感心した。人間もアリと同じようなことを繰り返している。神様の方から見れば、人間もアリのように見えるのではあるまいかと思う。
「道伝えの日」では、古くから伝わる茶道や華道、俳句、短歌、舞踊、邦楽、書道などの「道」と、地域に綿々と続く年中行事を広く紹介し、歴史と文化を継承しようとするさまざまな事業を行っています。
その一環として高山市伝承館では、四月二十三日(土)二十四日(日)に、道伝え茶会を開きます。また、両日も午前九時半から、今年の干支「卯」と歌会始の勅題「葉」をテーマにした「飾り物展」の入り
(社)高山市文化協会加盟団体
文化協会後援 催事のお知らせ
・主催/翔山会 (代表 三川祐平)
・日時/七月十日(日) 午前九時～午後五時半
・会場/高山市民文化会館
・入場料/無料
賞作品十二点を展示します。新緑の眩しい城山で、至福のひと時を過ごしませんか。
◇日時・内容
二十三日 煎茶席(皇風流茶禮式)
二十四日 抹茶席(宗和流四常社)
いずれも午前十時～午後四時(午後三時までに入席)
呈茶券(三百円)は、市民文化会館、文化伝承館で発売しています(当日券有)



に掲載
◇賞
文芸祭賞 一名 賞状及び副賞
江夏美好賞(小説のみ) 一名 賞状及び副賞
入賞(高山市長賞ほか) 十名 賞状及び副賞
青竜賞(高校生以下) 若干名 賞状及び副賞
◇その他 応募作品は返却しません
◇問合わせ先 高山市文化協会(三四・六五〇)
◇発表 十月中旬に入賞者へ通知。広報「高山の文化」等
◇審査 高山市文化協会文芸部委員と文芸部門より選出の役員で予選し、最終審査は必要に応じ専門の経験者を加え選考する。
◇発表 十月中旬に入賞者へ通知。広報「高山の文化」等
◇問合わせ先 高山市文化協会(三四・六五〇)